

第 10 回東北地区船員就職支援懇談会

6 月 12 日、宮城県仙台市のハーネル仙台の会場で、第 10 回東北地区船員就職支援懇談会が開催され、船員養成教育機関から 6 人、国土交通省東北運輸局から 1 人、水産庁から 1 人、水産会社などの関係者 28 人、本組合から 9 人の計 45 人が出席した。

はじめに高橋雅幸東北地方支部長が「本懇談会は第 10 回目を迎え、関係各位の取り組みが一定の成果に結びつく事例は見られるものの、少子化による労働人口減少の影響で、水産業界全体では後継者確保・育成は喫緊の課題。本日の懇談会が後継者の確保・育成・定着の一助となるよう、忌憚のない意見をお願いしたい」とあいさつした。

懇談会では、国土交通省東北運輸局から東北管内の船員の求人・求職状況が報告され、一般社団法人全国漁業就業者確保育成センターからは、学生向けの漁業ガイダンスの実施状況と生徒たちの感想や意見が報告された。

船員養成教育機関の意見

▽近年は、商船より漁船志望の生徒が増えている。また、船員の収入や、海技免状が取得しやすい環境であるかを、気にする生徒も増えている

▽就職した後に、事前のイメージとギャップが大きいと早期に離職してしまうので、就職ガイダンスや求人票では、好ましいことだけでなく、厳しいことも含めた情報を生徒たちに伝えられるよう記載をお願いする

▽商船会社からの学校訪問が増えてきている。情報提供の手段では、動画投稿サイトを活用する事例も増えている

会社側の主な意見

▽当社では、若年船員のために陸上休暇を増やしていたが、現在はむしろベテラン船員が長期の休暇を喜んでおり、若年船員のほうがお金を稼ぐために早く出漁したいと言っている状況もある

▽SNS の活用や就職ガイダンスに若い船員を参加させることで、学生が情報に触れる機会を増やし「漁船に乗船している自分のワークライフバランス」を事前にイメージできるようにすることが重要だと思う

懇談会は、若者の船員職業選択に向けた課題や後継者確保・育成と定着への取り組みについて意見交換が行われ、共通理解を深めて終了した。

「海員だより」